

テーマ

『野菜を入れた氷を触ってみよう』

《テーマ設定理由》

- ・「触ってみたい」「何だろう」というわくわくした気持ちを育む。
- ・氷の冷たさ、硬さ、溶けていく変化に触れ、五感を通して素材に親しむ。

《環境設定・準備したもの》

- ・季節の野菜(スイカ、きゅうり、ミニトマトなど)を入れた氷
- ・ビニールシート

《活動スケジュール》

活動内容	氷の活動(野菜)
時間	8月8日／20分間
人数	6人

《振り返り・気付き》

身近な野菜が入っていたことで「あ！」という指差しに繋がった。氷に手を付け、それを頬に付けたとき、保育者が「冷たくて気持ちいいね。」と子どもの気持ちに共感し、言語化することで子ども自身も「気持ち良い感覚」を言葉として得ることができたように思う。氷が大きくて持てないとき、「大きいね。」と保育者が言葉を掛けると「おっき！」と繰り返す姿もあった。また、冷たすぎて手が痛くなる感覚も面白い、それに気付くと、ちょこっと手をつけて遊ぶなど長い間氷を持つことをしなくなった。野菜の氷から、感覚と言葉が繋がった体験にくわえ、体験から思考していく姿が見られた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告 0歳児クラス③

《活動内容・子どもの様子》

- ・氷に興味を示し、集まり始める。
- ・氷の中に何か入っていることに気付き「あ！」と指差しをする。
- ・氷を触ってみる。氷を触った手を頬に付け、冷たくて良い気持ちを表すかのように笑顔になる。
- ・手で触ると心地良いと気づいた子どもは、今度は足の裏をつけてみる。
- ・長い間触っていると手が痛くなることに気付き、顔をしかめる。
- ・氷を持ってみる。大きい氷に「おっき！」と言って、上手く持てないけれど、何度も挑戦してみる。

